

# 下北山村の郷(まち)づくりについて



平成30年4月11日  
下北山村



# 下北山村マップ

# 位置図

## 【下北山スポーツ公園】



(全体)



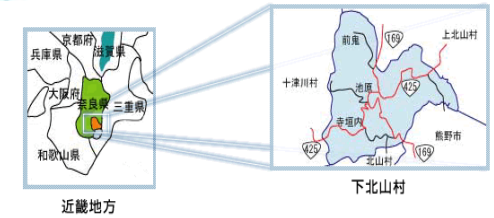
(きなりの湯)



(宿泊施設)



(キャンプ場)



【池原ダム(釣り)】



【土曜朝市】



【池の平ゴルフ場】

# 下北山スポーツ公園地区の郷(まち)づくり

## <郷(まち)づくりの背景>

### ●生産年齢人口の減少と産業活力の低下

推計では、生産年齢人口が2025年には242人に半減する。労働力の減少に伴い、産業活力や生産力が低下すると予測される。

### ●近隣県にまたがる生活圏域

下北山村は奈良県の南東端に立地し、南境は和歌山県北山村、東南境は三重県熊野市に隣接し、村民の生活圏域は、県内の近隣町村よりも、従来から熊野、新宮であり、特に近年は道路環境も改善され、アクセスが便利である。

### ●スポーツ、文化の拠点

下北山スポーツ公園(人工芝サッカー場、温泉、レストラン、宿泊、キャンプ場、イベントステージ等)は、レクリエーション、スポーツ合宿機能が高く、公園内にあるキャンプ場は西日本「人気No.1」※に選ばれるなど人気度が非常に高い。しかし利用者の多くは夏期シーズンに集中している。 ※ キャンプ場予約サイト「なっぷ」が人気度で選ぶ「なっぷAWARD2017」予約件数部門で西日本1位を獲得

### ●村民の交流拠点

少子高齢化や人口が、減少している中で、住民同士が交流するための環境整備が必要になっている。

下北山スポーツ公園では、桜まつり、夏祭り(花火大会)、冬のイルミネーション等が行われており、村内外の人々の集う場となっている。

### ●災害機能の充実

近い将来発生が懸念される南海トラフ巨大地震などの自然災害に適切に対処するため、下北山スポーツ公園の宿泊機能やオープンスペースを活用した災害機能の充実が必要。

### ●交通アクセス

一般国道169号は、「紀伊半島アンカールート」として緊急輸送路等の重要な役割を担っており、上北山村白川から下北山村間は狭隘で急カーブが多く、大型車両の対向に苦慮している。

## <郷(まち)づくりのコンセプト>

### 高めあい、助けあ<sup>※</sup>う「きなりの郷(まち)」づくり

～住みたい、住んで良かった、行きたい、行って良かった“きなりの郷下北山”～

※「きなり」は日本独自の価値観を表す言葉であり、まざりけがなく純粹であるということを意味します。

★魅力あふれる下北山スポーツ公園を活用し年間を通して村外からの来訪者を誘致し、雇用力を強化する。

★地域での郷土愛を育み、様々な地域活動への場を提供し、地域活力の創出と人材の育成を進める。

★南海トラフ巨大地震等に備え、村民のみならず近隣県の被災者の受け入れ可能な体制整備をする。



## <郷(まち)づくりの取組イメージ>

### ★村外来訪者の誘致

- ◎県内外からのサッカー合宿等スポーツ活動の更なる拡充を図るための宿泊施設の増設
- ◎川沿いで子どもなどが楽しめる親水公園など水遊び場所の整備や支障木の伐採、植栽による景観の整備
- ◎池原ダムやキャンプ場など地域資源を活用した年間を通じた集客イベントの開催
- ◎ウインターキャンプ等による冬期利用の拡充や、北山三村(下北山村・上北山村・北山村)との連携イベントの開催を検討
- ◎日本遺産である前鬼集落跡やトチノキ巨樹群などの観光資源を活用したイベントやツアー等の実施支援

### ★地域活力の創出・人材育成と雇用の強化

- ◎NPO法人サポートきなりを中心としたコミュニティビジネス(有償運送)やスモールビジネス(郷土食の提供、ツアー造成)等による雇用の創出
- ◎春まななどの特産品の安定した生産体制の確立と販売の強化
- ◎土曜朝市・高齢者グランドゴルフ大会・育児サークルなどを実施する住民グループが活動する場の充実
- ◎郷土の文化、偉人(杉岡華邨)などの活動を情報発信する展示スペースの整備
- ◎スポーツフィッシングを活用した内水面漁業の活性化

### ★災害対策機能の整備

- ◎下北山スポーツ公園の宿泊機能やオープンスペースを活用した大規模災害時の被災者受け入れ(県内・県外)にも対応できる機能をもたせた宿泊施設、食事提供施設、備蓄倉庫等の整備
- ◎避難生活に必要な物資の備蓄と支援物資の受入体制の構築

